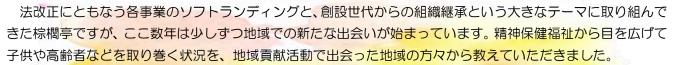


SSKP はれのちくもり

棕櫚亭賛助会通信 第112号



この「福島を知る」も、新たな出会いの一つです。前回の活動報告会でもお話ししていただいた福島県の松本さん・高瀬さんとの出会いは2016年からで、有志による福島研修も2回目となりました。福島で起きていることを知り、またそこから自分たちの足元を考える、その繰り返しが私たちの活動を深めてくれるものだと感じています。

~福島研修旅行に参加して~

法人本部 荒木 浩



2月10日・11日に渡り、棕櫚亭の職員有志15名で、東日本 大震災で大被害に見舞われた福島県浜通り地区へ研修旅行に行ってきました。

現地のコーディネーターとして、社会福祉士の松本喜一さん、 ケアマネージャーの高瀬芳子さん、そして震災時に原発で仕事を 行なっていた三間智之さんにお世話になりました。

初日は、被災地域の幹線道路である国道 6 号線を北上し、今も残る被害の惨状を目に焼きつけ、夜はいわきの宿の 大部屋で映像資料を使って講義を受けました。講義内容は、高齢者支援を行なっていた高瀬さんが震災を境に避難勧 告を受けた地域の高齢者たちを孤軍奮闘しながら郡山市に連れて行ったことや、震災後の復興状況などを中心にお聞 きすることができました。エネルギッシュな高瀬さんが話す一言ひとことに心揺さぶられ、改めて震災被害・原発事 故のことなどに心が痛みました。

二日目は、福島第一原発が立地し、今尚帰還困難地域に指定されている大熊町の高瀬さんの元の御自宅を見せていただきました。通常、外部者は帰還困難地域に入ることはできませんが、高瀬さんや三間さんの様に区内に自宅所有していれば許可がでるので、帯同させていただきました。とは言え簡単に入域できるわけではなく、事前の申請に加えて、身分証の提示そして線量計の所持が義務付けられ退出時には厳重にチェックされるという物々さには緊張がはしりました。かつて一地方の町としては栄えていたことを想像させる街並みも倒壊し、汚染で手がつけられず崩壊がすすむにまかせ放置された様子は、廃村という以外に言葉が見つかりません。動物と泥棒に荒らされた後の灰色のその街並みに一同息をのみ、空気の動く方向に目を向けるとイノシシがこちらに向かってくる姿に足もすくみます。震災直後から時が止まった、いやむしろ逆回転しているようにも感じられるこの風景はこの先どのようになっていくのか想像できません。

(2ページ目に続く)

(1ページより続き)

私たちの仕事は、ほんの少しずつ前に進み、時には尻込みしながら一生懸命生きていく精神障害者の伴走者のような役割を一面もっています。人それぞれペースがあってお互いその呼吸を合わせるまでに辛い思いをすることもあります。仕事の中で辛いことの一つは、拒まれることです。それでも、粘り強くかかわり、理解していこうとする姿勢を大切にしています。しかしながら、この街は私達を受け付けず一切拒否する感じさえしてきました。強い拒否感にどこから関わっていいのかわからず、私は呆然として一歩を前に出すことができない一瞬そんな気持ちになりました。

「でも…、立ちすくんでいてはだめだ、こんな時こそ私たちこそがその粘り強さを発揮しなければならないのだ」 そんなふうに思い直しました。つまり、困難な出来事にぶち当たった時こそ粘り強く関わり理解し、そして解決して いくことの大切さを今回の研修で私は再確認できたように思います。

現地でリアルに今の福島に触れることで職員百人百様の思いを抱いたようです。職員一同その思いを胸にしながら、 今回お世話になった御三方にお礼を述べて福島の地を後にしました。今回の研修をどのように仕事に生かしていくの かこれからも考えたいと思います。

冨島被災地を巡るツアーの報告会を行いました

福島被災地を巡るツアーの報告会を2月28日に行いました。

普段、特に復興支援の活動をしているわけではないスタッフがほとんどではありますが、震災以降心のどこかにひっかかりを持ち続けていたりすることも事実です。その中で今回ツアーに参加したしないにかかわらず新たな発見や気付きの多い時間を共有する事が出来ました。

内容としては当日どんなところを巡ったのか、どんなことを感じたのかを写真を交えて伝えていきました。テレビ や新聞で見た事のある光景もありますが今回は立入制限のある地域の光景が多く8年が経過した現在もまだまだ現 在進行形であることを実感したところです。

また、福島から私たちの地元である国立市に避難している人たちがいるということも話の中で出てきました。遠いところの話と思いがちですが実は近くの話であるということもあらためて感じました。

ひとり一人どう感じたのかは当然違います。大きく考えたら国のエネルギー政策の話から自分達それぞれの生活の 問題まで多岐にわたります。報告会の中ではそれを議論するのではなく行ってみてどうだったのか、それを聞いてみ てどうだったのかを大切にしていきました。

私個人も震災3年後に被災地を訪れたことがあります。その時に現地の方から言われたことをあらためて思い出しました。一つは「とにかく経済が回らないから現地に足を運んでお金を落として欲しい」。もう一つは「どんな形でもいいから関心を持ち続けて欲しい」という言葉でした。

今回の報告会をうけて自分達には何が出来るだろうと自問したスタッフがほとんどだったと思います。もちろんアクションすることが理想ではありますが何が出来るだろうと忘れずに考え続けていくことがなにより必要だと思います。今回ツアーに参加したこと、報告会に参加したことは関心を持ち続けるという意味でとても大切な時間になりました。 (ピアス 浅野博)

松本さん・高瀬さんとのつながりから実現した今回の旅行をきっかけとして、福島を始めとしたこの社会で起こっている数々の出来事へ目を向け、報告会などの場でも取り上げてきています。しかし、棕櫚亭としても、それぞれ一個人としても、今この一時だけではなく、細く長く、考え続けていかなければならないと思っています。それぞれが見てきたこと、感じたことを書き起こし、ぽつりぽつりとその呟きをホームページに載せていきますので、よろしければご覧ください。

(現在、「北村編」「熊谷編」「前理事長天野編」を掲載中ですが、まだまだ続きます…)



「ある風景」~作業所の総括~ しかし原点は病院にあった・・・

棕櫚亭より出版のお知らせ



3年前に理事長が小林由美子に代わって、組織継承しました。 継承に当たっては、棕櫚亭が何に基づいて何を大切にしてきた組 織なのか?過去を振り返りつつ、自問してきています。現在 HP 上で連載している「ある風景」はその一つの形といえます。

「ある風景」はベテランと中堅職員が中心になって、若かりし 自分から見えていた共同作業所をリレー形式で書き綴ってきま したが、その多くはあたたかくのどかで柔らかな風景でした。し かし精神保健・医療の歴史はその一面だけでは語れない、むしろ 多くは黒歴史だったことは皆さん御承知の通りです。

そんな暗澹たる精神保健・医療の歴史に風穴を開けるべく孤軍 奮闘したのは多摩棕櫚亭協会創設者の天野聖子を始めとする 4 人の女性達でしたが、その多くを語らず退職されました。それは、 作りだした共同作業所に重い過去を持ち込みたくなかったのか もしれません。

しかし、私達はその歴史、その思いを知らずして精神保健福祉を継承したとはいえないとも感じています。今回、前理事長の天野さんが、勤務していた精神病院での文字通り"戦い"を執筆し、それを読んだことで、潜在的に精神保健が抱える課題の理解が深まりまた一歩継承に近づけたのではないかと感じています。

改めて精神保健活動の理解が、精神的に豊かで誰もが住みやすい社会につながっていくということの確信を持つことができました。そういう意味では業界の方に限らずこの本を多くの人に読んでいただきたいと思います。



現在ホームページにて連載中⇒

ご支援&ご寄附のお礼

賛助会員の皆様には、平素より、当法人の活動にご理解・ご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。9月号にて、2018年度会費の振込用紙を同封させていただきました。早速、36名の会員の皆様からのご支援を頂きました。ありがとうございました。次号の賛助会通信にて、2019年度分賛助会費のお振込み用紙を同封する予定でございます。今後とも、引き続き変わらぬご支援を頂けましたら幸いです。

また、2018年度は法人本部宛に、3件の大口のご寄付を頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。

株式会社 新陽 様より 100,000 円 株式会社 MFK 様より 300,000 円 賛助会会員 会費より 500,000 円

棕櫚亭職員一同、深く感謝しております。どうぞ今後ともお力添えのほど、よろしくお願い申し上げます。

フレッシュな新人職員、 森岡さんのご挨拶です!

4月から非常勤の職員として働くことになった森岡純加です。

私は大学3年次に、棕櫚亭で18日間の精神保健福祉士の実習をさせていただきました。「就労支援」の分野を選んだ理由は、生きていくためには仕事が必要だ、だからその現場を知りたい!ととても直線的な思考だったように思います。実習前は就労支援とは就職するための支援だと思っていましたが、実習が進むにつれてそれだけではないことがわかってきました。私が印象に残ったのは棕櫚亭では「精神障害者の幸せ実現」という理念のもと、メンバーさんと職員さんが一緒に「幸せ」や「人生」についてく考えていたことです。就職に限らずこれまで・これからの人生まで丸ごと考えていくことは決して容易ではありませんが、そんな姿勢を持った職員さんのいる法人は魅力的だなと感じました。この実習で、それまでの自分の考えが偏っていたことを痛感し、たくさんの気づきや広い視野を学びました。

その後、ご縁があってこの 1 年間は週 2 日のアルバイトをさせていただきました。主に厨房トレーニングに入り、みなさんと一緒に配膳や配達などを行ってきました。厨房の業務は慌ただしく、時間にも追われます。無事一日が終わるとホッとしてドッと疲れがでることもしばしばです。しかし、メンバーさんが取り組んでいる課題や目標に向き合い、取り組んでいる姿にたくさんの刺激をいただきました。就活や仕事選びについてメンバーさんの意見を聞きつつ、一緒に考えた 1 年だったように思います。そんな中で、自分でもわからなかった自分の考え方や気持ちを見つけることができたように思います。また、病院実習や卒業論文の提出、国家試験とお休みをいただきつつ学業にも励み、無事この 3 月に大学を卒業しました。

これから社会人として働いていくのだと思うと不安な点は多々ありますが、引き続き棕櫚亭で働けて光栄に思います。また棕櫚亭に就職が決まった際、メンバーさんから「おめでとう」「よろしくね」と温かい言葉をかけていただいたことはとても嬉しかったです。まだまだ未熟で人生経験も浅い私ですが、メンバーさんと同じ方向を向きながら一緒に悩み・考えられる職員になりたいです。そして私自身も成長していければと考えています。それに何より毎日楽しい日々をみなさんと送れるといいなあと思っています。今後とも宜しくお願いします。

お知らせ

~法人本部~

5/25 理事会 6/下旬 評議員会・理事 会 (予定)

~なびい~

4/13 フリマに出店します
@富士見台商店街むっさ 21
売り上げは被災地に寄付します。
ぜひお立ち寄りください!

~棕櫚亭 I ~

5/15(水)~20(月) 絵画展@くにたち福祉会館

絵画教室で描いた絵を展示します。土日含め、10 時~16 時の間は担当者がおります(それ以外の時間 でも、福祉会館の開館時間であれば展示はご覧になれ ます)。ぜひいらしてください。

【GW 中の開所予定について】

【棕櫚亭 I ・なびい・ピアス】4/30(火)~5/2(木) 開所

※なびい:16 時まで

※ピアス:外部への弁当配達はありません

【オープナー】5/1(水)・5/2(木) 9~17 時 開所

~詳しくは各施設にお問い合わせください~

【編集後記】

私事ですが、気づけば早いもので、棕櫚亭に来て5回目の春を迎えております。毎年見える風景がちょっとずつ変わっていくような、変わらないような…。目まぐるしく変わり行く社会の中で、棕櫚亭が変わらず受け継ぎ大切にしてきたもの、棕櫚亭イズムのようなものの片鱗を、これからもみなさまに紙面でもお伝えしていければと思います。

(個人的には5年目になっても色んなことが追い付いていませんが、ここ数年で積ん読っぷりだけは確実に成長しています) by 尾崎



多摩棕櫚亭協会

ウェブサイトにて 最新の情報をお届けしています。

☞『棕櫚亭』で検索 www.shuro.jp

【編集】国立市富士見台1-17-4

社会福祉法人 多摩棕櫚亭協会 はれのちくもり編集委員会

Tel 042-575-5911

【発行】特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0072 世田谷区祖師谷 3-1-17-102

Tel 03-6277-9611

【定価】100円